【草花の部屋】

シャコバサボテン（サボテン科スクルンベルゲラ属 Schlumbergera）

和名：シャコバサボテン(蝦蛄葉仙人掌)

別名：クリスマス・カクタス、デンマーク・カクタス、カニバサボテン

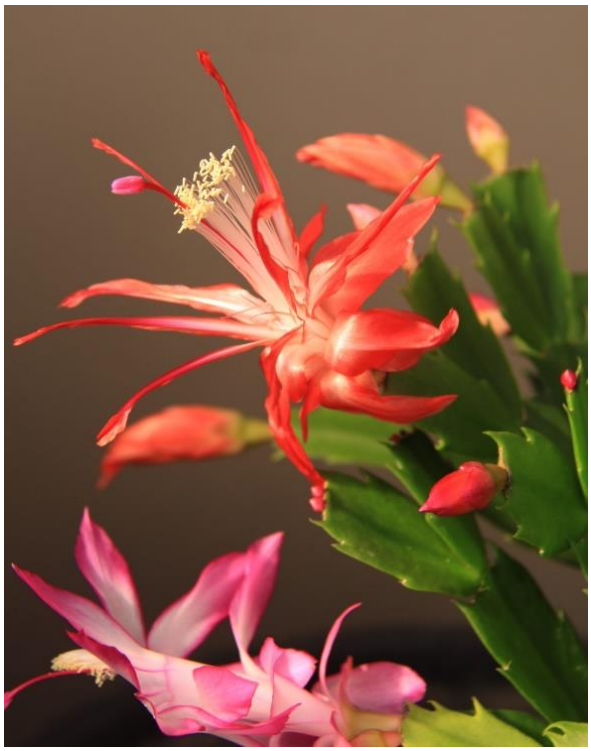
英名： Christmas Cactus

ナデシコ目　　多年草　　原産地：ブラジル南東部

花言葉：ひとときの美、美しい眺め、つむじまがり、もつれやすい恋

花色：赤、桃、黄、白、複色

←写真-１　シャコバサボテン
撮影日：2023 年 11 月 13 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん



←↗ 写真-２、３　シャコバサボテンの花(赤・桃)
撮影日：2023 年 11 月 7 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

←↓ 写真-４、５ シャコバサボテンの花(桃)
撮影日：2023 年 11 月 7 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

← 写真-６ シャコバサボテンの花(白)
撮影日：2023 年 11 月 7 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

→ 写真-７ シャコバサボテンの花
(白：アルビノ性種)
撮影日：2023 年 11 月 7 日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M　さん

和名の蝦蛄葉仙人掌(シャコバサボテン)は、その茎節の姿が海に生息する蝦蛄に似ていることからつけられたと言われています。また、英名の Christmas Cactus は、シャコバサボテンがクリスマス頃に咲き、その姿がカクタス（サボテン）に似ていることが由来となっているそうです。短日性植物で一の日照時間が短くなってくると蕾を形成することが知られています。多肉質で縁にぎざぎざがある小判型の形状をした葉茎節がいくつも連なった形状をしており、幾又にも枝分かれし、その枝先に反り返った美しい花を咲かせます。

黄色の花種は、低温下で開花させると濁った橙色に花色が変わる性質を持つそうで、白色種は、低温下で開花させると薄い桃色に花色が変わる性質を持ち、白く咲いても雌蕊は赤紫色をしているそうです。一方、アルビノ性の純白色品種は、温度に関係なく純白の花を咲かせ、雌蕊が黄色いところで前述の白花品種とは区別できるそうです。10 月頃から 1 月頃にかけて開花期の中心で、花は 7cm ほどの大きさですが、蕾が未成熟の時に移動させると落蕾しやすいので、ある程度蕾が大きくなってから株を移動させると良いそうです。

シャコバサボテンは寒さに弱いので基本的に鉢植えで育て、室内の明るい窓辺で管理すると良いそうで、春に屋外でたっぷり日に当てるとしっかりした株に育つそうです。また、真夏の直射日光が厳しい時期には風通しの良い明るい半日陰くらいが好ましく、涼しくなってきたら必ず室内に取り込み、再び日の当たる窓辺で管理すると良い状態で育つそうです。

＜ちょっと一言＞

・シャコバサボテンの花言葉「ひとときの美」「美しい眺め」は、開花するまではあまりパッとしないけれど咲くととても美しく、才能が開花した時の素晴らしさをイメージしてつけられたと言われているそうです。